

岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科

教育職員免許法施行規則

(昭和二十九年十月二十七日文部省令第二十六号)

第二十二條の六 認定課程を有する大学は、次に掲げる教員の養成の状況についての情報を公表するものとする。

本学は、教育基本法、学校教育法および大学設置基準により、高等学校基礎教育の上に一般の学術文化の研究を行なうとともに、我が国の少子高齢化時代に対応する栄養管理の専門教育に重きをおく大学教育を施し、よき社会人として時代の進運に応じ、Society 5.0 で実現する地域社会の指導者たるの人材の育成するをもって目的とする。

教育目標

人間生活学部食物栄養学科では、高度な専門知識や技能を修得し、健康寿命延伸・QOL 向上のための栄養の指導を行う専門家を育成する。

4年間じっくり学ぶことで、栄養士免許を取得するとともに、管理栄養士の国家試験受験資格を得る。管理栄養士とは、「人」の健康の維持増進をはかるための栄養の指導に携わる専門家である。高齢化が進むこれからの社会にあってはチーム医療のスタッフとして大いに期待され、また、食品技術系の企業においても、管理栄養士に人材ニーズが高まっている。食物栄養学科では将来、こうした栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献する管理栄養士を育てるために次の教育目標を掲げている。

- ① 生活習慣病の予防と改善に貢献する管理栄養士の養成
- ② 疾病の予防や治療において栄養評価・判定に基づく高度な専門知識・技能による栄養指導及び栄養管理等に携わることのできる管理栄養士の養成
- ③ 豊かな人間性に富み、カウンセリングや福祉・介護分野の知識を修得した管理栄養士の養成
- ④ 人材ニーズが高まっている食品技術系の企業で活躍する管理栄養士の育成
- ⑤ 学校における食に関する指導の目標、食に関する指導の全体計画、各教科等や給食における食に関する指導方法を修得し、管理栄養士として学んだことを学校教育の現場で生かすことができる栄養教諭の育成

※ Society 5.0 とは (内閣府 https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/)

サイバー空間 (仮想空間) とフィジカル空間 (現実空間) を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会 (Society) である。

狩猟社会 (Society 1.0)、農耕社会 (Society 2.0)、工業社会 (Society 3.0)、情報社会 (Society 4.0) に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画 (平成 28～令和 2 年度) において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。

Society 5.0 で実現する社会は

IoT (Internet of Things) で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、

今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服する。

また、人工知能（AI）により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服される。

社会の変革（イノベーション）を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合あえる社会、一人一人が快適で活躍できる社会となる。

Society 5.0 時代に必要な 3 つの力（岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 基礎教育科目の教育課程編成・実施の方針）

クリエイティブ力

基礎的な知識から新しい知識・健康関連データを創造する力や新食品開発企画力や研究開発力など栄養学分野の基本的な能力と知識を現代の諸問題と関連づけて展開できる力

マネジメント力

数量的スキルや ICT リテラシーで Society 5.0 時代のビッグデータを管理・活用し、円滑なチームワーク、リーダーシップ、対人コミュニケーションで、個人のヘルスプランを創案し、健康改善につなげる力

ホスピタリティ力

心身のサポートや精神的にケアする力、健康づくりをサポートするために信頼される社会人としての態度、信念、意見および責任を果たすために必要な倫理観、自己管理能力などの力

学生の学習成果

本学で学ぶ学生の卒業時の学習成果は、建学の精神「教育三綱領」の基、自律した信念のある社会人となることである。

Society 5.0 時代の現場に即応でき、栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献できる管理栄養士になるために、学科の教育課程（基礎教育科目および専門教育科目）の学習をとおして、次の学習成果を獲得する。

I．専門的学習成果

学科の専門学習では、Society 5.0 時代の現場に即応でき、栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献できる管理栄養士になるため、学科の教育課程の学習をとおして、専門知識と専門的能力を獲得する。

- ① 多様な専門領域に関する基本となる専門的知識を獲得する。
- ② チーム医療の重要性を理解し、他職種や患者とのコミュニケーションを円滑に進める能力を獲得する。
- ③ 公衆衛生を理解し、栄養・給食関連サービスのマネジメントを行う能力を獲得する。

- ④ 健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養指導を行う能力を獲得する。
- ⑤ 子どもが将来にわたって健康に生活していけるよう、食に関する指導(学校における食育)をする能力を獲得する。

II. 汎用的学習成果

基礎教育科目の学習をとおして、

- ⑥ 基礎的な知識から新しい知識・健康関連データを創造する力や新食品開発企画力や研究開発力など栄養学分野の基本的な能力と知識を現代の諸問題と関連づけて展開できるクリエイティブ力を獲得する。
- ⑦ 数量的スキルやICTリテラシーで Society 5.0 時代のビッグデータを管理・活用し、円滑なチームワーク、リーダーシップ、対人コミュニケーションで、Society 5.0 時代のビッグデータを管理・活用し、個人のヘルスプランを創案し、健康改善につなげるマネジメント力を獲得する。
- ⑧ 心身のサポートや精神的にケアする力、健康づくりをサポートするために信頼される社会人としての態度、信念、意見および責任を果たすために必要な倫理観、自己管理能力などのホスピタリティ力を獲得する。

卒業認定・学位授与の方針

学位:学士(栄養学)

修業年限:4年

卒業の要件

総修得単位 124 以上

イ)学部共通基礎教養科目については、22 単位以上。

ロ)学科専門科目については、70 単位以上。

管理栄養士国家試験受験資格については「専門基礎分野」38 単位、「専門分野」44 単位の総単位数 82 単位最低限必要。

Society 5.0 時代の現場に即応できる管理栄養士になるため、基礎教育科目および管理栄養士課程の専門教育科目の単位を修得し、学則に規定する卒業に必要な単位を修得した者に学位を授与する。

卒業を認める卒業生の学習成果は次のとおりである。

1. 学位授与に必要な単位を修得している。
2. 卒業後社会人として求められるコミュニケーション能力、態度(心構え)や職業に対する知識、理解、価値、意見を獲得している。

尚、単位認定は科目の成績評価を基礎として単位認定の教授会において、学習成果を基準に判定する。

教育課程編成・実施の方針

管理栄養士課程として、栄養士の免許および管理栄養士の国家試験受験資格を得るための専門教育科目を編成し、実施する。

また、同時に「食品衛生資格履修コース」を専門教育科目の中に科目指定し、実施する。

栄養教諭一種免許状を得るための教職課程を編成し、実施する。

Society 5.0時代に求める3つの力を汎用的学習成果として獲得させる基礎教育科目にクリエイティブ力基礎科目群、マネジメント力基礎科目群及びホスピタリティ力基礎科目群を編成し、実施する。

入学者受け入れの方針

本学に入学する人物には、次のような資質・能力を求める。

- 栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献する管理栄養士の仕事を理解している。
- 卒業後、管理栄養士として働く意思が強い。
- Society 5.0時代に必要なスキルの修得意識が強い。
- 本学での学習に必要な一定水準の学力を身に付けている。
- 生物、化学を基礎とする学習に努力できる。

二 教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関すること。

【栄養に係る教育に関する科目】

科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数		担当教員	履修方法等
			必修	選択		
栄養に係る教育に関する事項	栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項	学校栄養指導論Ⅰ	2		塩津敦子講師	
	幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項					
	食生活に関する歴史的及び文化的事項					
	食に関する指導の方法に関する事項	学校栄養指導論Ⅱ	2		塩津敦子講師	
●単位数		・教員の免許状取得のための必修科目（選択必修科目の単位数を含む）			4単位	
		・教員の免許状取得のための選択科目			0単位	

【教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目】

免許状の種類	免許法施行規則に定める科目及び単位数		左記に対応する開設授業科目			担当教員 (非):非常勤
	科目	単位数	授業科目		単位数	
			必修	選択		
栄教一種免	日本国憲法	2	日本国憲法		2	近 勝彦 (非)
	体育	2	体育実技 体育理論		1 1	吉田升講師 (兼任) (吉田升講師)
	外国語コミュニケーション	2	英語Ⅰ 英語Ⅱ		2 2	花田春香 (非) (花田春香)
	情報機器の操作	2	ICTリテラシーⅠ ICTリテラシーⅡ		2 2	小松正直講師 (小松正直講師)

【栄・教育の基礎的理解に関する科目等】

免許法施行規則に定める科目区分等		令和2年度以降					
		授業科目	単位数		共通開設	専任教員	履修方法
科目区分	各科目に含める必要事項		必	選	学校種	氏名・職名	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2			堀口のぞみ講師	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教師論	2			(堀口のぞみ講師)	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度論	1			(堀口のぞみ講師)	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2			(大賀恵子教授)	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援の方法と理解	1			(大賀恵子教授)	
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	1			(堀口のぞみ講師)	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳・特別活動・総合的な学習の時間	2			(尾崎聡教授) (都田修兵講師)
	総合的な学習の時間の指導法						
	特別活動の指導法						
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育の方法及び技術	1			原田博史教授 (都田修兵講師) (塩津敦子講師) (原田俊孝講師)	
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導論	2			(浦上博文教授)	

	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談	2			(中西美恵子)(非)	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法						
教育実践に関する科目	教育実習	事前・事後指導	1			(塩津敦子講師)	
		栄養教育実習	1			(塩津敦子講師)	
	学校体験活動						
	教職実践演習	教職実践演習(栄養教諭)	2			(塩津敦子講師)	
●単位数 ・教員の免許状取得のための必修科目(選択必修科目の単位数を含む) ・教員の免許状取得のための選択科目			(新) 20 単位 / (旧) 20 単位 (新) 0 単位 / (旧) 1 単位				

各教員が有する学位及び業績

教員名	原田博史	学位	工学修士	職名	学長 教授
担当科目	教育の方法及び技術、グローバル研修				
専門分野	土木構造物の構造解析、情報処理、米国アクレディテーションシステム				
最終学歴	昭和 52 年 3 月	法政大学大学院工学研究科建設工学専攻修士課程修了			
これまでの主な経歴	昭和 52 年 4 月 昭和 59 年 4 月 昭和 59 年 4 月 昭和 60 年 8 月 昭和 61 年 4 月 昭和 61 年 4 月 昭和 62 年 4 月 昭和 63 年 4 月 平成元年 4 月 平成 2 年 4 月 平成 10 年 4 月 平成 14 年 4 月 平成 14 年 4 月 令和 2 年 4 月	会社勤務（昭和 59 年 3 月迄） 学校法人原田学園主事就任（昭和 61 年 3 月末迄） 岡山女子短期大学講師（昭和 63 年 3 月迄） 大学設置審議会の教員組織審査（岡山女子短期大学 講師 コンピュータ概論、コンピュータ演習、コンピュータ演習Ⅱ、英文タイ プⅡ（ワープロ）） 学校法人原田学園評議員、理事就任（現在に至る） 学校法人原田学園副理事長就任（平成 14 年 4 月 1 日迄） 学校法人原田学園法人本部長（平成 2 年 3 月 31 日迄） 岡山女子短期大学助教授（平成元年 3 月 31 日迄） 岡山女子短期大学（平成 12 年 4 月岡山短期大学に名称変更） 教授（現在に至る） 岡山女子短期大学副学長（平成 10 年 3 月 31 日迄） 岡山女子短期大学（平成 12 年 4 月岡山短期大学に名称変更） 学長（現在に至る） 岡山学院大学学長、人間生活学部学部長就任（現在に至る） 学校法人原田学園理事長就任（現在に至る） 岡山学院大学教授（現在に至る）			
これまでの主な業績	昭和 59 年 4 月 昭和 59 年 12 月 昭和 61 年 4 月 昭和 63 年 9 月 平成 2 年 10 月 平成 6 年 1 月 平成 6 年 12 月 平成 8 年 3 月 平成 8 年 4 月 平成 8 年 7 月 平成 9 年 4 月 平成 9 年 9 月 平成 9 年 10 月	岡山女子短期大学の全学科（家政学科・食物栄養学科・幼児教育学科） に情報処理教育を導入した。 岡山女子短期大学の英語科増設に伴ってカナダブリティッシュコロン ビア州立マラスピナ・カレッジ（現バンクーバー・アイランド・ユニバ ーシティ）との姉妹校提携を掌った。 英語科学生の姉妹校での独自の英語研修を導入した。 会計及び教学関係の殆どの事務処理の機械化を導入した。 英語科を母体とする専攻科英語秘書専攻を平成元年 4 月に開設する為、 カリキュラムの中に姉妹校との単位互換科目を取り入れ、学生の滞在施 設となる本学所有のカナダ研修センター（敷地 892.37 m ² 、延床面積 182.98 m ² ）を姉妹校の所在するカナダBC州ナナイモ市に平成元年 7 月開設した際、購入から改修まで全て掌った。 教育の場において情報処理技術者の養成が急務となり、情報処理教育セ ンターを新設した際、設計、設備を全て企画した。 岡山女子短期大学開学 40 周年史刊行した際、1 年を掛けて全て編集し 刊行した。 体育館を新設した際、設計、設備を全て企画した。 これまでの通年制の科目履修を改め、学習目標をたて易く、単位修得を 弾力化する Semester 制を導入した。 全開講授業科目のシラバスの作成を指導し、学生に配付した。 全学をあげて大学改革を推進するため、本学独自の大学改革の標語「ニ ューカレッジ・フロンティアプラン（新・短期大学・最先端・構想）（N C F P）」を掲げ、教育内容・施設設備・学生生活等あらゆる面からの 自己点検・評価を開始した。 公式ホームページを開設した。 平成 9 年後期 Semester 開講授業科目のうち専任教員担当授業科目全 てに授業アンケートを実施した。 校舎内の図書館から図書館を新設した際、設計、設備を全て企画した。 スター型の学内 LAN（光ケーブルの基幹 1 Km 及び支線 6 Km）を学内 全域の敷設を計画し、同時に学術情報センターから JPNIC に接続すると 同時に、教員研究室には授業活用の授業計画による採択方式で端末を設 置した。また、学生のホームルームの全て、図書館、情報処理教育セン			

	<p>平成 10 年 4 月</p> <p>平成 11 年 1 月</p> <p>平成 12 年 4 月</p> <p>平成 12 年 5 月</p> <p>平成 12 年 12 月</p> <p>平成 13 年 4 月</p> <p>平成 13 年 9 月</p> <p>平成 14 年 1 月</p> <p>平成 14 年 4 月</p>	<p>ター及び就職求人コーナー等にも端末を設置し、インターネットの活用を促進した。</p> <p>学内LAN「OWCNET」構築により、情報処理教育科目に限らずネットワーク教育を様々な授業科目に取り入れることとした。</p> <p>授業を受けやすい環境を整備する目的で、全教室・研究室に冷暖房を整備した。</p> <p>専任教員が担当する授業科目の全てに対して、履修学生による学生の授業評価を実施し、平成 12 年度より学内にホームページで公表した。</p> <p>岡山女子短期大学の校名を「岡山短期大学」に変更し男女共学とした。</p> <p>平成 11 年度自己点検・評価報告書に基づく第三者評価（高校教員による本学視察及び意見交換）を実施した。</p> <p>教育水準の確保並びに教員の教育意識の向上を図るべく、FD（ファカルティディベロップメント）に学科毎に 1 年をかけて取り組み、その内容・成果を全学教育に反映させるため、全学科全専任教員参加のFDワークショップを実施した。</p> <p>平成 12 年度実施した自己点検・評価報告書に基づく第三者評価（プログラムレビュー）並びに教員によるFDワークショップの記録全てを平成 12 年度自己点検・評価報告書に掲載して公表し、さらに本学公式ホームページで平成 12 年度自己点検・評価報告書を学内外に公開した。</p> <p>岡山短期大学に図画工作・器楽レッスン棟を新設した。</p> <p>岡山学院大学の開学に伴い C 棟を全面改修により栄養学実験実習棟を新設した。</p> <p>岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科及び生活情報コミュニケーション学科を開学させた。</p>
これまでの主な研究業績	<p>(著書)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 短期大学における自己点検・評価の有り方に関する調査研究報告書（共著・日本私立短期大学協会短期大学運営問題委員会） 2. 米国 2 年制高等教育機関の認定過程等について（共著・日本私立短期大学協会） 3. 高等教育機関認定のハンドブックー米国北西地区大学認定協会ー（共著・日本私立短期大学協会） 4. 岡山女子短期大学開学 40 周年史（共著・編集・岡山女子短期大学） 5. 私立短期大学の管理運営と活性化（共著・日本私立短期大学協会） <p>(学術論文)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多経間ラーメンの位相差を考慮した振動解析（法政大学大学院工学研究科（修士論文）） 2. 女子短大におけるコンピュータ教育（岡山女子短期大学紀要第 9 号） 3. 短期大学における情報教育（短期大学教育・日本私立短期大学協会） 4. 短期大学教育の質保証と国際通用性（短期大学教育 73 号・日本私立短期大学協会） 5. 米国の 2 年制カレッジと日本の短期大学（短期大学教育 74 号・日本私立短期大学協会） 6. 短期大学基準協会の認証評価と教学マネジメント（短期大学教育 75 号・日本私立短期大学協会） <p>(その他)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 岡山短期大学幼児教育学科 Society 5.0 保育者養成コース開設（共著・岡山学院大学・岡山短期大学紀要第 44 号） 	
学会及び社会における活動等	<p>土木学会会員（現在に至る）</p> <p>高等教育質保証学会会員（現在に至る）</p> <p>日本私立短期大学協会常任理事（現在に至る）</p> <p>公益社団法人フードスペシャリスト協会理事（現在に至る）</p> <p>一般財団法人大学・短期大学基準協会短期大学認証評価委員会委員長（現在に至る）</p> <p>一般財団法人大学・短期大学基準協会副理事長（現在に至る）</p> <p>一般財団法人大学・短期大学基準協会大学認証評価委員会委員長（現在に至る）</p>	

教員名	原田 俊孝	学位	修士（経営学）	職名	准教授
-----	-------	----	---------	----	-----

担当科目	ICT リテラシー I・II、教育の方法及び技術				
専門分野	経営学、情報処理、キャリアデザイン				
最終学歴	平成 23 年 3 月	大東文化大学大学院経営学研究科経営学専攻（博士前期課程）			
これまでの主な経歴	平成 23 年 4 月 平成 25 年 3 月 平成 25 年 4 月 平成 30 年 4 月 令和 2 年 4 月 令和 3 年 4 月 令和 4 年 4 月 令和 4 年 4 月	岡山短期大学幼児教育学科 助教 学校法人原田学園評議員（現在に至る） 岡山学院大学・岡山短期大学 学園主事・総務課長（現在に至る） 岡山短期大学幼児教育学科 講師（令和 4 年 3 月まで） 岡山学院大学・岡山短期大学 事務部長（現在に至る） 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 講師（令和 4 年 3 月まで） 岡山学院大学・岡山短期大学 准教授・副学長（現在に至る） 学校法人原田学園理事・副理事長（現在に至る）			
これまでの主な研究業績	（学術論文等） 1. 短期大学のキャリアガイダンスにおけるシステム認識プロセスの適用の一考察 2. 学校教育における情報機器の活用と課題 3. 岡山短期大学幼児教育学科 Society 5.0 保育者養成コース開設（共著・岡山学院大学・岡山短期大学紀要第 44 号） 4. Society 5.0 への取り組み（1）—岡山短期大学幼児教育学科での実践—（共著・岡山学院大学・岡山短期大学紀要第 44 号） 5. Society 5.0 への取り組み（2）—岡山短期大学幼児教育学科での実践—（共著・岡山学院大学・岡山短期大学紀要第 44 号）				
学会及び社会における活動等	日本キャリアデザイン学会				

教員名	塩津敦子	学位等	学士(栄養学) 管理栄養士免許 栄養教諭一種免許	職名	講師
-----	------	-----	--------------------------------	----	----

担当科目	学校栄養指導Ⅰ・Ⅱ、事前・事後指導、栄養教育実習、教育の方法及び技術	
専門分野	栄養学	
最終学歴	平成 11 年 3 月	岡山県立大学 保健福祉学部 栄養学科 卒業
これまでの主な経歴	平成 11 年 4 月 平成 14 年 4 月 平成 19 年 4 月 平成 24 年 4 月 平成 26 年 4 月 平成 27 年 4 月 平成 30 年 4 月 平成 30 年 11 月 令和 3 年 4 月	阿哲郡大佐町立学校給食共同調理場 (現 新見市立大佐学校給食共同調理場) 勤務 (学校栄養技師) 総社市立総社西学校給食共同調理場 勤務 (学校栄養技師) 倉敷市立味野中学校 勤務 (学校栄養技師→学校栄養主任) 倉敷市立万寿小学校 勤務 (栄養教諭) 倉敷市教育委員会 保健体育課 勤務 (主任) 倉敷市立連島南小学校 勤務 (栄養教諭) 平成 29 年度末退職 倉敷市立富田小学校 新規採用学校栄養職員研修指導員 (倉敷市教育委員会非常勤講師) 川崎医療福祉大学 医療技術学部 臨床栄養学科 勤務 (非常勤講師) 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科特別専任講師 (現在に至る)
これまでの主な研究業績	(研究発表) 1. 小教研倉敷支会健康教育部研究発表会 (共同研究) 1. 小教研倉敷支会健康教育部研究発表会	
学会及び社会における活動等	岡山県学校栄養士会会員	

教員名	堀口のぞみ	学位	修士（教育学）	職名	講師
-----	-------	----	---------	----	----

担当科目	生涯学習概論、キャリアガイダンス、教育原理、教師論、教育制度論、教育課程論、教職実践演習（栄養教諭）				
専門分野	教育学・教育哲学				
最終学歴	平成 28 年 3 月 令和 3 年 3 月	広島大学大学院教育学研究科教育学専攻博士前期課程修了 修士（教育学） 広島大学大学院 教育学研究科教育学習科学専攻 博士後期課程中途退学			
これまでの主な経歴	平成 28 年 9 月 平成 29 年 4 月 平成 30 年 4 月 令和 5 年 4 月	広島県三次看護専門学校非常勤講師（教育学担当）（平成 28 年 12 月まで） 広島県呉市医師会看護専門学校非常勤講師（哲学担当）（平成 29 年 6 月まで） 日本学術振興会 特別研究員 DC2 社会科学（教育学）（令和 3 年 3 月まで） 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科講師			
これまでの主な研究業績	<p>（学術論文）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 後期 H. アレントの思考論における責任概念の位置 2. I. ヤングの正義論の教育学的射程—構造的不正義に関する市民育成の観点から— 3. I.M. ヤングのフェミニスト現象学的身体論の教育学的意義 （学会発表） <ol style="list-style-type: none"> 1. 未来志向的責任論の教育学的意義—I. ヤングの未来志向的責任論概念を H. アレントの集団責任概念と対峙して— （第 59 回 教育哲学会、東京大学） 2. The Limitation of Hannah Arendt’s Consideration on Thinking (Asian Link of Philosophy of Education) （National Chiayi University, Taiwan） 3. Young ‘s Reinterpretation of Arendt’s Conception of Collective Responsibility (Asian Link of Philosophy of Education) （Seoul National University, Korea） 4. Iris Young Conception of Political Responsibility (International Postgraduate Roundtable and Research Forum cum Summer School 2018 （The Education University of Hong Kong） <p>（その他）</p> <p>日本学術振興会（JSPS）科学研究費助成事業（KAKEN）特別研究員（DC2） 課題番号:18J13991「現代責任論の責任概念分析とその教育学的意義」 （教育実践記録等）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自治体における栄養教諭配置状況の格差の現状と制度的課題 2. 栄養教諭養成のためのカリキュラム編成における今日的課題 				
学会及び社会における活動等	中国四国教育学会会員 教育哲学会会員				

教員名	小松正直	学位	修士 (理学) 博士 (理学)	職名	講師
-----	------	----	--------------------	----	----

担当科目	基礎数学、データサイエンス I II、ICT リテラシー I II、情報処理基礎、情報処理演習 ICT リテラシー (A) (B)				
専門分野	地震学				
最終学歴	2018年9月	岡山大学大学院自然科学研究科地球生命物質科学専攻博士後期課程修了			
これまでの主な経歴	2018年10月	岡山大学大学院自然科学研究科博士研究員 (2019年3月まで)			
	2019年4月	岡山大学大学院自然科学研究科非常勤研究員 (2023年3月まで)			
	2019年4月	岡山理科大学生物地球学部非常勤講師 (現在に至る)			
	2023年4月	岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科講師			
これまでの主な研究業績	<p>(学術論文)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 西南日本の三次元 P 波減衰構造 (査読付) 2. 焼きなまし法による初動発震機構解の決定 3. 沖縄本島における深部地盤の S 波速度構造 4. Quasi-Cartesian finite-difference computation of seismic wave propagation for a three-dimensional sub-global model (査読付) 5. Three-dimensional P- and S-wave attenuation structures around the source region of the 2016 Kumamoto earthquakes (査読付) 6. 南西諸島における地震波減衰構造の推定とそれに基づく地震動シミュレーションのための広域地下構造モデルの構築 (博士学位論文) 7. 中小規模の島嶼部における深部地盤 S 波速度構造モデル (奄美諸島・吐噶喇列島編) 8. 時間領域差分法による表層地盤の非線形応答の計算 9. Estimation of seismic attenuation of the Greenland Ice Sheet using 3-D waveform modeling (査読付) 10. メジアンフィルターを用いた 2016 年熊本地震の断層近傍における加速度記録の基線補正と変位波形の推定 11. 地形を考慮した陸海統合 3 次元地震波速度構造モデルを用いた大分県周辺の長周期地震動シミュレーション <p>(その他)</p> <p>[外部資金]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 西南日本における三次元地震波減衰構造の推定及び検証 2. American Geophysical Union Fall Meeting 2015 における研究成果の発表 <p>[研究報告書]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 沈み込み帯の巨大地震を対象とした大規模並列地震波・津波伝播シミュレーション 2. 海溝型巨大地震を対象とした大規模並列地震波・津波伝播シミュレーション 3. 海溝型巨大地震を対象とした大規模並列地震波・津波伝播シミュレーション 4. 海溝型巨大地震を対象とした大規模並列地震波・津波伝播シミュレーション 5. 地盤の非線形応答を考慮した地震波シミュレーション：強震動予測と震源過程解析 6. 大規模並列地震波シミュレーションに基づく南西諸島における地震発生メカニズムの高精度解析 7. 大規模地震波シミュレーションを用いた 2011 年東北地方太平洋沖地震の震源域構造モデルの波形トモグラフィー 8. 大規模地震動シミュレーションに基づく南西諸島域の高精度震源解析 9. 大規模地震波シミュレーションによる沈み込み帯の波形トモグラフィー：2011 年東北地震震源域と南西諸島域 10. 大規模地震動シミュレーションに基づく南西諸島域の高精度震源解析 <p>[学会発表]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中国・四国地方の三次元 S 波減衰構造 2. 西南日本の三次元地震波減衰構造 3. Three-dimensional Seismic Attenuation Structure Beneath Southwest Japan 4. 沖縄先島諸島における P 波減衰構造 5. 簡便なコーナ周波数 f_c の推定法と減衰量 t^* の決定 6. 長大距離地震波動伝播シミュレーションのための地球の曲率を考慮した計算スキーム 7. 2014 年 3 月 14 日伊予灘深発地震の初期段階の破壊過程 8. 南西諸島における三次元地震波減衰トモグラフィ 				

	<p>9. Quasi-Cartesian Finite-Difference Computation of Seismic Wave Propagation for a Three-Dimensional Sub-global Earth Model</p> <p>10. Three-Dimensional Seismic Attenuation Structure in the Ryukyu Arc, Japan</p> <p>11. 3次元及び2次元震源イメージングから推定した2014年伊予灘稍深発地震の初期段階の破壊過程</p> <p>12. 南西諸島の広帯域地震波形データを用いたレシーバ関数解析</p> <p>13. 2015年大分県南部地震(Mj5.7)における大分県周辺の長周期地震動シミュレーションと地下構造モデルの検討</p> <p>14. 焼きなまし法を用いた初動発震機構解の決定</p> <p>15. 2016年熊本地震初期破壊過程のイメージング</p> <p>16. 南西諸島の広帯域地震波形データを用いたS-wavevectorレシーバ関数解析</p> <p>17. 2016年熊本地震震源域周辺の三次元地震波減衰構造</p> <p>18. 沖縄本島における深部地盤のS波速度構造</p> <p>19. Seismic imaging of receiver functions at virtual receivers in Ryukyu arc, Japan</p> <p>20. Imaging of Initial Rupture Process of the 2016 Kumamoto, Japan, Earthquake</p> <p>21. 地震波干渉法を用いた別府湾周辺地域における深部地盤構造モデルの検証</p> <p>22. 2016年熊本地震の強震記録を用いた岡山県内のサイト特性の評価</p> <p>23. アレイ解析による2016年4月16日大分誘発地震の震源の推定</p> <p>24. S-wave structure in the Nansei Islands, Japan, inferred from microtremor array explorations</p> <p>25. Early rupture process of the 2016 Kumamoto earthquake inferred from source imaging</p> <p>26. Three-dimensional P- and S-wave attenuation tomography in the Ryukyu Arc, Japan</p> <p>27. 地震波減衰トモグラフィから見る2016年熊本地震震源域下の流体分布</p> <p>28. 南西諸島における連続地動記録を用いた雑微動の相互相関解析</p> <p>29. 別府湾周辺における微動の連続観測記録を用いた深部地盤構造の検証</p> <p>30. 2次元線形分散津波方程式の効率的な計算：スキーム編</p> <p>31. 2次元線形分散津波方程式の効率的な計算：計算編</p> <p>32. 遠地津波のための線形分散波方程式を効率的に解く新しい方法</p> <p>33. 3次元不均質構造モデルを用いた2016年大分県由布で発生した地震のCMTインバージョン</p> <p>34. 岡山県内の震度観測網, K-NET, KiK-netの観測点におけるサイト増幅特性の抽出</p> <p>35. 南西諸島における震源スケールリング</p> <p>36. スペクトル・インバージョンに基づく岡山県内の強震観測点におけるサイト増幅特性</p> <p>37. 3次元理論地震波形計算によるグリーンランド氷床のQ値の推定</p> <p>38. 津波の非線形分散波方程式を効率的に解く新スキームの開発</p> <p>39. 地球の曲率を考慮した3次元構造モデルに基づく地震動・地殻変動・津波統合シミュレーション</p> <p>40. 2018年北海道胆振東部地震の初期段階の破壊過程</p> <p>41. 中小規模の島嶼部における深部地盤S波速度構造モデル(奄美諸島・吐噶喇列島編)</p> <p>42. Efficient new scheme solving the linear and nonlinear dispersive wave equations for near- and far-field tsunamis</p> <p>43. Q-factor estimation for Greenland ice sheet using 3-D seismic waveform modeling</p> <p>44. 南西諸島におけるP波・S波減衰構造</p> <p>45. 岡山県全域の地盤構造の推定</p> <p>46. ソース・イメージング法を用いた2019年山形県沖の地震における初期段階の破壊過程の推定</p> <p>47. 3次元不均質構造モデルを用いた2016年大分県由布の誘発地震の余震のCMTインバージョン</p> <p>48. 平面波入射を仮定しないで、地表地震動から地中の入射波を算定する方法</p> <p>49. 2019年山形県沖の地震の初期破壊過程</p> <p>50. 地表の観測記録から平面波入射を仮定しないで地中の地震動分布を求める方法の検討</p> <p>51. 近地強震波形記録を用いた2016年大分県中部の地震のCMT解析</p> <p>52. 2D・3D ソースイメージング法を用いた2018年北海道胆振東部地震の初期破壊過程の推定</p> <p>53. 2016年熊本地震で観測された長周期速度パルスの生成に関する理論的解析</p> <p>54. 強震波形記録と海陸統合3次元地下構造モデルを用いた沖縄本島近海で発生した地震のCMT解析</p>
--	---

	<p>55. 地表観測記録を用いた地中地震動の推定：深い評価点における検討</p> <p>56. 2016年熊本地震で誘発された大分県中部の地震の初動読み取りと震源決定</p> <p>57. 地表観測記録を用いた地中地震動の推定(2)：定量的な評価に基づく手法の改良</p> <p>58. CMT解による観測点補正値を用いた沖縄本島南東沖の地震の震源再決定</p>
学会及び社会における活動等	<p>日本地震学会</p> <p>日本地球惑星科学連合</p> <p>物理探査学会</p> <p>日本地震工学会</p> <p>Seismological Society of America</p> <p>American Geophysical Union</p>

教員名	都田 修兵	学位	修士(教育学)	職名	講師
-----	-------	----	---------	----	----

担当科目	グローバル研修、キャリアガイダンス、公務員講座(A)・(B)、保育者論・教師論、教育原理、教育制度論、事前・事後指導、幼稚園教育実習、保育・教職実践演習(幼稚園)、保育原理Ⅰ・Ⅱ、教育課程論及び教育方法・技術論、卒業予備研究、卒業研究(A)・(B)	
専門分野	教育学	
最終学歴	平成27年3月 平成29年3月	岡山大学大学院教育学研究科学校教育学専攻(修士課程)修了 広島大学大学院教育学研究科後期博士課程教育人間科学専攻中途退学
これまでの主な経歴	平成27年5月 平成27年9月 平成28年4月 平成28年10月 平成29年4月 平成30年4月	<p>国立大学法人広島大学非常勤職員 広島大学大学院教育学研究科ティーチング・アシスタント(TA)(平成28年2月まで)</p> <p>広島県立三次看護専門学校非常勤講師(「論理的思考」を担当)(平成28年3月まで)</p> <p>国立大学法人広島大学非常勤職員 広島大学大学院教育学研究科オリファイド・ティーチング・アシスタント(QTA)(平成29年2月まで)</p> <p>広島県立三次看護専門学校非常勤講師(「教育学」を担当)(平成29年1月まで)</p> <p>岡山短期大学幼児教育学科助教</p> <p>岡山短期大学幼児教育学科講師(現在に至る)</p>
これまでの主な研究業績	<p>(学術論文等)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. A Study of Acceptance of Emerson's Thought in Japan: Focusing on Tokoku Kitamura's Emerson 2. R. W. エマソンの神秘主義思想とその教育的意義 3. エマソンの超越主義的教育思想における神秘主義の意味 4. エマソンの超越主義的教育思想のもつ宗教的特質 5. R. W. エマソンの初期教育思想に関する研究—牧師の二重性と教育的空間の二重性に着目して— 6. 大学教員の授業観に関する研究—教職科目の授業分析とインタビュー分析を通じて— 7. 道徳授業の難点を大学における授業でどのように考えるか 8. 新幼稚園教育要領における「道徳性・規範意識」に関する考察(著作) 1. 生き方を耕す小学校の道徳授業 2. 「先生の先生になる」ための教育プログラムの現状と課題 3. 宗教と道徳の関係について説明しなさい(共著) 4. 道徳科における「道徳的諸価値」について説明しなさい(共著) 5. 「特別の教科 道徳」における「内容項目(A)」について説明しなさい(共著)(教育実践記録等) 1. 「教職」の社会的意義と「自己信頼」による「教育的相互尊重」 2. 教員の職務内容と「チーム学校」の関係に関する研究 3. 教育方法及び技術の歴史的展開と教育方法としてのアクティブラーニング 4. 年齢別保育指導案の作成と評価—「地蔵鬼」を事例として— 5. 保育指導案の書き方と保育現場における評価 6. 日本における教育改革と教育制度としての幼児期の教育 7. 学校における道徳教育の教育内容・教育方法再考(共著) 8. 学校と地域、教育行政の協働による学校安全の構築に関する研究 9. 「特別活動」と「総合的学習の時間」の目標と内容の関係 10. 自然を意識した道徳授業の理論的基盤に関する研究序説—エマソンの超越主義思想と 	

	自然観を手がかりとして— 1 1. 道徳授業におけるマンガ教材のための基礎的研究 1 2. 幼児教育における保育内容「環境」の重要性（共著） 1 3. 保育内容「環境」の指導案作成と1つの実践報告（共著） 1 4. Society 5.0 への取り組み（1）— 岡山短期大学幼児教育学科での実践 —（共著） 1 5. Society 5.0 への取り組み（2）— 岡山短期大学幼児教育学科での実践 —（共著）
学会及び社会における活動等	教育哲学会、教育思想史学会、日本道徳教育学会、日本道徳教育方法学会、日本デュイイ学会、日本ペスタロッチー・フレーベル学会、イギリス理想主義学会、中国四国教育学会、くらしき幼児教育ネットワーク

教員名	吉田 升	学位	博士（健康科学）	職名	講師
-----	------	----	----------	----	----

担当科目	体育実技、体育理論、保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅱ、保育実習指導Ⅱ、幼児と健康、「幼児と健康」の指導法、幼児と表現Ⅰ、「幼児と表現Ⅰ」の指導法、幼児と体育（A）・（B）卒業予備研究、卒業研究（A）・（B）	
専門分野	運動生理学、環境生理学、健康科学	
最終学歴	令和元年9月	川崎医療福祉大学大学院医療技術学研究科健康科学専攻（博士（健康科学））
これまでの主な経歴	令和元年9月 令和元年9月 令和2年4月 令和3年4月	川崎医療福祉大学非常勤講師（健康体育実技（スポーツ系）、体育指導法C、健康体育基礎演習） 吉備国際大学非常勤講師（生涯スポーツ実習看護・作業、生涯スポーツ実習スポ社B） 岡山短期大学幼児教育学科助教 岡山短期大学幼児教育学科講師
これまでの主な研究業績	（学術論文等） 1. Effect of the Rotational Speed of a Long Jump Rope in a Person Turning the Rope on Heart Rate and Oxygen Uptake 2. 水中の息継ぎの指導法に向けての基礎的研究（1）—呼吸経路の変更に要する時間について— 3. グレープフルーツ果汁含有ミネラルウォーター摂取が低山登山中の水分摂取行動および尿中成分に及ぼす影響 4. 身体表現に対する保育学生の意識調査—保育内容「表現（身体）」の受講前調査— 5. ウェアラブル呼気ガス分析装置を用いた酸素摂取量の妥当性（査読付き） 6. 自閉症児者のエンパワメント向上のための水中運動教室の取り組み（査読付き） （教育実践記録等） 1. 幼稚園教育要領の領域「健康」における変遷 2. 幼稚園教育要領の領域「健康」における指導案の提案 3. 幼稚園教育要領の領域「表現」における変遷 4. 幼稚園教育要領の領域「表現」における指導案の提案	
学会及び社会における活動等	日本体力医学会、日本運動生理学会、日本登山医学会、日本幼児体育学会、日本宇宙航空環境医学会、日本体育学会	

その他非常勤講師

近 勝彦 大阪市立大学大学院 教授 法学修士（広島大学）

中西美恵子 関西福祉大学看護学部看護学科特任教授 修士（教育学）（岡山大学）
小学校教諭専修免許

花田春香 現職なし 修士（社会学）（一橋大学）

三 教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること。

授業科目ごとの授業の方法及び内容は本学ウェブサイトのシラバス参照 (<https://owc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2023/06/6.R5syokusyillabus.pdf>)。

4年間の授業計画

免許法施行規則に定める科目又は科目区分		授業科目	必修	選択	計	1 年 前 期	1 年 後 期	2 年 前 期	2 年 後 期	3 年 前 期	3 年 後 期	4 年 前 期	4 年 後 期
栄養に係る教育に関する科目		学校栄養指導論Ⅰ	2		2					2			
		学校栄養指導論Ⅱ	2		2						2		
小計			4	0	4	0	0	0	0	2	2	0	0
第6条の6に定める科目	日本国憲法	日本国憲法	2		2			2					
	体育	体育理論	1		1	1							
		体育実技	1		1		2						
	外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	2		2	2							
		英語Ⅱ		2	2		2						
	情報機器の操作	ICTリテラシーⅠ	2		2	2							
ICTリテラシーⅡ			2	2		2							
小計			8	4	12	5	6	2	0	0	0	0	0
栄・教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	2		2			2					
		教師論	2		2				2				
		教育制度論	1		1						1		
		教育心理学	2		2			2					
		特別支援の方法と理解	1		1						1		
		教育課程論	1		1						1		
	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳・特別活動・総合的な学習の時間	2		2							2	
		教育の方法及び技術	1		1						1		
		生徒指導論	2		2							2	
		教育相談	2		2						2		
	教育実践に関する科目	事前・事後指導	1		1							1	
		栄養教育実習	1		1								1
教職実践演習（栄養教諭）		2		2								2	
小計			20	0	20	0	0	4	2	6	5	1	2
合計			32	4	36	5	6	6	2	8	7	1	2

◎基礎資格—学士の学位を有すること、かつ、栄養士法第2条第3項の規定により管理栄養士の免許を受けていること又は同法第5条の3第4号の規程により指定された管理栄養士養成施設の課程を修了し、同法第2条第1項の規程により栄養士の免許を受けていること。

栄養教諭一種免許状を取得しようとする者は栄養士免許取得及び管理栄養士国家試験受験資格を得るために必要な栄養士法管理栄養士指定教育分野の専門基礎・専門分野のそれぞれの区分における講義・演習・実験又は実習必修単位（82単位）を修得しなければならない。

四 卒業者の教員免許状の取得の状況に関すること。(令和4年度)

卒業者数(男・女)	0	33
栄養教諭一種免許状取得者数(男・女)	0	7

五 卒業者の教員への就職の状況に関すること。(令和4年度)

教員就職者数 0人

六 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること。

栄養教育実習報告会の実施

実習終了後、学科教員及び3・4年次生全員に対して、栄養教育実習報告会を実施している。

その内容は、

- ① 実習学校名、学級数、実習学年
- ② 実習中に気を付けた事項
- ③ 研究授業の指導案について(手直し/経過等)
- ④ その他の授業について(給食時間等)
- ⑤ 研究課題について(テーマ・目的等)
- ⑥ 参観授業について(科目名・学年・児童の様子等)
- ⑦ 実習全体を通しての反省・感想

について実習生一人ひとりが発表用の資料を準備して学会発表形式で発表を行うものである。

実習生は、事後指導で、実習担当教員の指導の下、実習の学習成果を十分に整理して発表に臨み、発表後は学科教員、参加学生から質問を受けることを念頭に、質問に対して適切な応答ができるよう十分な準備をするので、栄養教育実習全般にわたる自己評価と、入職までの課題の確認が一層深まる。